

青森市障害者相談支援事業 活動報告

資料5-3

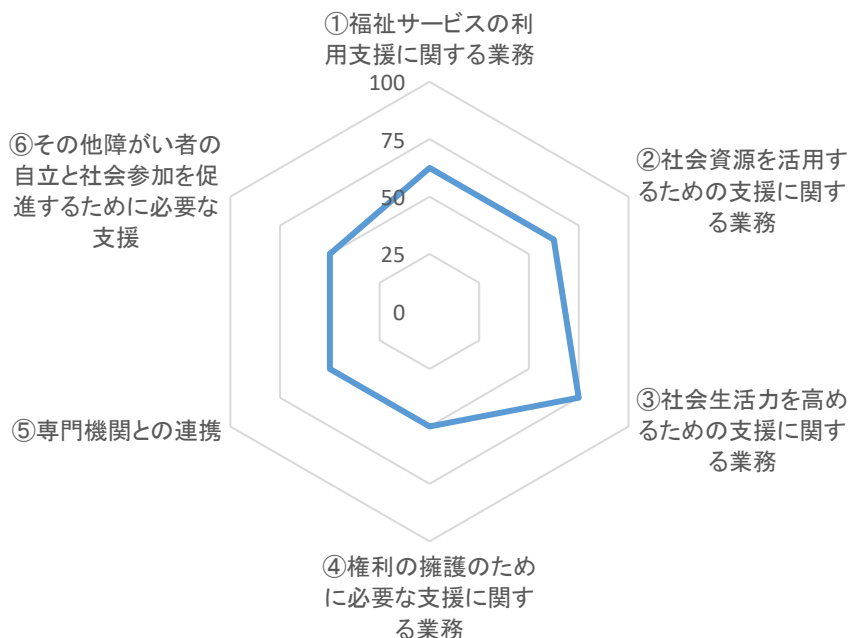
事業所名: 地域活動支援センターすばる

I 平成31年度実績

①相談件数									
訪問	来所	同行	電話	電子メール	FAX	個別支援会議	関係機関	その他	計
141件	616件	102件	1,822件	0件	2件	20件	445件	91件	3,239件
②支援内容									
福祉サービスの利用等に関する支援		183件	金銭管理						570件
障がいや病状の理解に関する支援		28件	書類の書き方の説明						7件
服薬管理		1件	代筆						0件
受診援助		24件	その他の生活技術に関する支援						186件
健康管理		0件	就労に関する支援						21件
その他の生活と医療に関する支援		215件	社会参加・余暇活動に関する支援						36件
不安の解消・情緒安定に関する支援		1,514件	権利擁護に関する支援						1件
保育・教育に関する支援		3件	虐待関係に関する支援						0件
家族関係・人間関係に関する支援		39件	住宅関係に関する支援						83件
家計・経済に関する支援		318件	その他						10件
相談者数(実人員)							111	人	
うち、身体障がい							12	人	
うち、知的障がい							18	人	
うち、精神障がい							83	人	
うち、その他							7	人	
うち、新規							9	人	

II 平成31年度の取り組みに対する自己評価

委託相談支援事業所 自己評価



【特記】重点的に取り組んだ事項

【福祉サービス等利用援助】
電話相談、来所相談、訪問相談等による相談対応。(※各種福祉サービス利用の意向や悩み、不安等について傾聴し、情報提供に努めた。)

【社会資源活用援助】
不動産関係、町会、その他地域資源等との連携や福祉サービス事業所との連携。

【社会生活力の活用援助】
受診同行、服薬管理、金銭管理、食事、住居に関する支援等について基本相談として継続して対応。

Ⅳ 特定相談支援事業所や他機関との連携状況

- ・**地域包括支援センター、特定相談支援事業所、医療機関等からの新規相談や紹介、協力依頼等で同行しながら連携**を図っている。その後も情報を共有しながらそれぞれのケースにおいて連携している。
- ・紹介や協力依頼等への対応について、速やかに同行することができなかったケースもあり、迅速な連携体制として課題がある。
- ・自事業所でそのまま特定相談支援も行わざるを得ないことが多く、特定相談支援事業所との連携(情報共有、紹介等)については課題である。

Ⅴ H31年度実績及び自己評価に関する全体評価

平成31年度も電話相談、来所相談、訪問相談等による相談対応に力を入れて取り組んだ。

地域生活における悩みや将来の不安等について傾聴し、必要に応じて情報提供を行い、体調面に関しては受診の同行、金銭面に関しては支払いの同行や継続的な金銭管理支援、行政機関等関係機関での手続き同行、住居関係に関してはアパート探し、引っ越し支援等の**細やかな対応**を行った。

このような独自の支援は当事業所らしさとして評価できるが、**関係機関、専門機関等との連携に関しては今後意識しながら取り組んでいく必要がある。**

Ⅵ 令和2年度において改善を要する点

- ・関係機関との連携を強化する。
- ・新規相談や関係機関からの紹介、協力依頼等への速やかな対応を行える体制作り。
- ・成年後見制度の利用支援等、権利擁護に関しての積極的な取り組みを行う。

Ⅶ 令和2年度の活動目標

- ・電話相談、来所相談、訪問相談等、相談対応に引き続き力を入れて取り組む。必要時の訪問や同行等の細やかな対応も継続し、権利擁護の視点も意識して取り組む。新規の相談や関係機関からの紹介、協力依頼に関しても断ることなく、迅速な対応が行なえるよう取り組む。
- ・関係機関との連携を強化する。特定相談支援事業所との連携を意識し、情報の共有できる機会を持ち、ネットワーク等、**地域における課題や困難事例等について相談し合えるよう、協力体制の構築**に向けて取り組む。

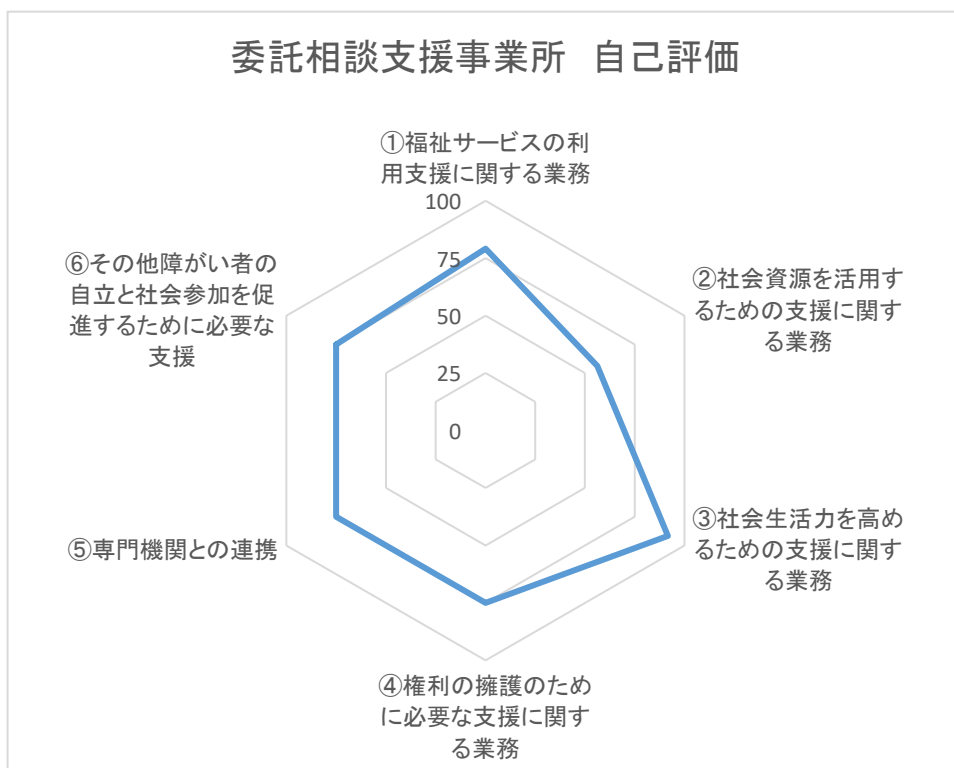
青森市障害者相談支援事業 活動報告

事業所名: 地域活動支援センター八甲

I 平成31年度実績

①相談件数									
訪問	来所	同行	電話	電子メール	FAX	個別支援会議	関係機関	その他	計
643件	1,362件	109件	1,027件	27件	6件	80件	2,036件	153件	5,443件
②支援内容									
福祉サービスの利用等に関する支援	2,706件	金銭管理	1,276件						
障がいや病状の理解に関する支援	8件	書類の書き方の説明	20件						
服薬管理	1件	代筆	16件						
受診援助	28件	その他の生活技術に関する支援	20件						
健康管理	8件	就労に関する支援	16件						
その他の生活と医療に関する支援	970件	社会参加・余暇活動に関する支援	36件						
不安の解消・情緒安定に関する支援	248件	権利擁護に関する支援	件						
保育・教育に関する支援	0件	虐待関係に関する支援	10件						
家族関係・人間関係に関する支援	18件	住宅関係に関する支援	11件						
家計・経済に関する支援	62件	その他	25件						
		相談者数(実人員)	251	人					
		うち、身体障がい	28	人					
		うち、知的障がい	29	人					
		うち、精神障がい	180	人					
		うち、その他	13	人					
		うち、新規	65	人					

II 平成31年度の取り組みに対する自己評価



【特記】重点的に取り組んだ事項

- ・ひきこもりや8050問題、未受診・受診拒否のケース、多問題家族の相談などが多く、受診に繋げるための訪問や同行支援、障害者手帳・障害年金取得など、長期的な関わりが必要なケースが多かった。精神科受診や制度利用により、病状安定や経済的安定に繋げることを重点的に取り組んだ。
- ・社会福祉協議会の自立支援事業から経済的困窮者の支援依頼もあり、関係機関と連携しながら、サービスや就労に繋がる支援ができた。
- ・多問題家族のケースについては、行政、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、訪問看護と連携を重視して支援に取り組んだ。

Ⅳ 特定相談支援事業所や他機関との連携状況

特定相談支援事業所との連携では、虐待の恐れがある利用者様の見守り訪問(モニタリング月以外)を行ったり、アパート探しや居場所作りなどの支援を行った。

地域包括支援センターとは、日常的に連携を取る機会が増え、高齢者と障害者の世帯への支援では、**行政や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護などの機関と協働し、何らかの制度利用やサービス利用支援を行った。**

サービス利用時は各障害福祉サービスの情報収集や見学等でも利用者の理解を得られるような対応を心がけている。社会福祉協議会からもケース依頼があり、連携をしながら経済的問題がある利用者への支援を行った。

また、保健所からの未受診のケースや育児支援が必要なケースでは、ケース会議を行い検討するなど連携を取った。中でも多かったのは精神科病院との連携で、未治療で治療につながったり、入院治療につながったあとに、経済的な問題や退院後の生活を検討する機会が多かった。

その他、ハローワーク、藤チャレンジド生活・就業センター、児童相談所や警察ともケースで連携する機会があった。

Ⅴ H31年度実績及び自己評価に関する全体評価

相談に関しては、依頼があればすぐに対応し、訪問や面談で十分情報を収集し課題を整理できていたと思われる。福祉サービスの利用支援等は利用者のニーズに沿い、同行などの直接支援も行った。長期にわたるケースが多いため、モニタリングの訪問は定期的に行い、状況把握や課題整理に努めた。

社会生活力を高めるための支援では、当事業所で金銭管理を行い、それに付随する利用者の課題へ支援したり、転居支援や住居の確保などは不動産と連携してアパート確保に努めた。日中活動への参加についても、サービスだけでなく地域にある資源を活用できるような支援を実施した。

ピアサポーターの養成については、すばる、やましると共催で毎年研修会を開催しており、今後の活動の在り方などを検討しながら取り組みは継続できている。

Ⅵ 令和2年度において改善を要する点

社会資源については、関係機関とのネットワーク構築や地域の課題整理は行えていないため、課題整理を行い、支援に生かしていく。

個別支援計画は、困難ケースについては作成しているが、それ以外のケースでは作成していないため、作成できるようにする。

行政や地域包括支援センターなど的高齢者機関との連携は多いものの、**特定相談支援事業所との連携をあまり行っていないため、連携のあり方などを改善し、役割機能の向上を行う。**

Ⅶ 令和2年度の活動目標

- ①地域の中でどこにも繋がっていない障がい者への支援を各関係機関と連携し行う。
- ②特定相談支援事業所との連携強化。
- ③地域包括支援センターなど的高齢者機関と連携を強化し、地域ケア会議などに積極的参加する。
- ④新たな社会資源の開拓に努める。
- ⑤相談支援事業所向け学習会の開催。
- ⑥ピアサポーター養成についての具体的な活動や研修会の開催。

青森市障害者相談支援事業 活動報告

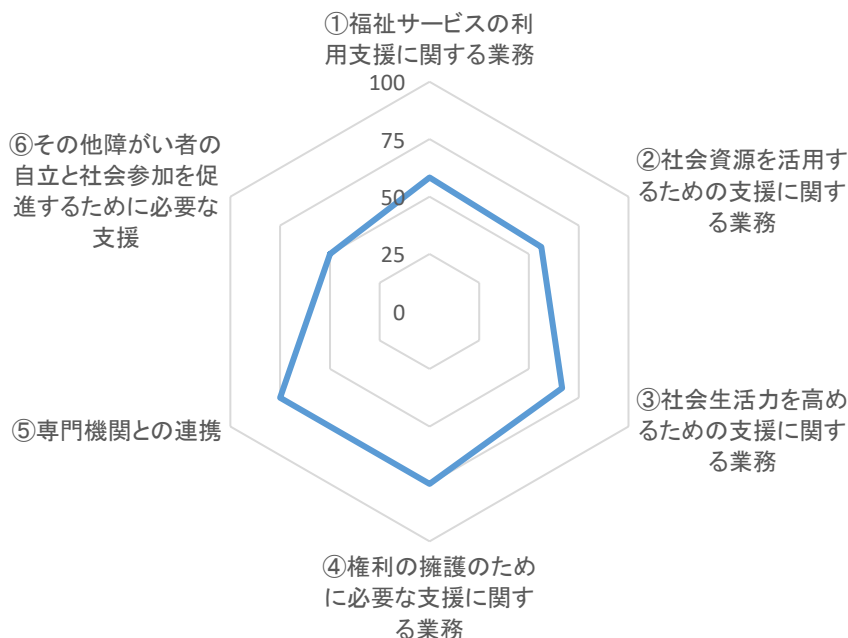
事業所名：指定相談支援事業所青森中央

I 平成31年度実績

①相談件数									
訪問	来所	同行	電話	電子メール	FAX	個別支援会議	関係機関	その他	計
62件	45件	25件	151件	0件	0件	9件	13件	1件	306件
②支援内容									
福祉サービスの利用等に関する支援		85件	金銭管理						1件
障がいや病状の理解に関する支援		12件	書類の書き方の説明						0件
服薬管理		0件	代筆						0件
受診援助		0件	その他の生活技術に関する支援						12件
健康管理		0件	就労に関する支援						6件
その他の生活と医療に関する支援		0件	社会参加・余暇活動に関する支援						0件
不安の解消・情緒安定に関する支援		97件	権利擁護に関する支援						0件
保育・教育に関する支援		0件	虐待関係に関する支援						0件
家族関係・人間関係に関する支援		3件	住宅関係に関する支援						4件
家計・経済に関する支援		11件	その他						75件
相談者数(実人員)							56	人	
うち、身体障がい							6	人	
うち、知的障がい							6	人	
うち、精神障がい							27	人	
うち、その他							17	人	
うち、新規							17	人	

II 平成31年度の取り組みに対する自己評価

委託相談支援事業所 自己評価



【特記】重点的に取り組んだ事項

出来る限り来た相談は受けるように取り組んだ。
サービスに繋がらないケースにおいても定期面談、訪問、電話相談等を継続的に対応した。
また、金銭管理や相続放棄等、専門機関に依頼し解決するよう努めた。

Ⅳ 特定相談支援事業所や他機関との連携状況

- ・特定相談支援事業所から基本相談のみの対応となったケースの引継ぎを行った。
- ・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所が担当する方の障害がある(疑われる)御家族への対応を行った。
- ・若者サポートステーションから家族、本人の障害受容ができておらず就労支援が進まないケースについて連携し対応した。

Ⅴ H31年度実績及び自己評価に関する全体評価

個別ケースでの対応については状況に応じて関連機関等との連携を図り対応してきたが、**社会生活や余暇活動等についての支援が弱く、地域づくり・地域課題への対応や特定相談支援事業所・関係機関との連携体制が不十分**であった。

Ⅵ 令和2年度において改善を要する点

特定相談支援事業所等との連携や地域課題への取り組みが不十分だった点について改善していきたい。個別のケースについても社会参加や余暇活動等の部分においても支援できるようにしていく。

Ⅶ 令和2年度の活動目標

計画相談業務と委託相談支援業務との住み分け・整理を行い、また、**相談支援専門員等の人員確保**に努めながら、委託相談支援業務により取り組んでいく。

青森市障害者相談支援事業 活動報告

事業所名: やましろ

I 平成31年度実績

①相談件数									
訪問	来所	同行	電話	電子メール	FAX	個別支援会議	関係機関	その他	計
52件	33件	20件	405件	0件	0件	8件	77件	21件	616件
②支援内容									
福祉サービスの利用等に関する支援				201件	金銭管理				3件
障がいや病状の理解に関する支援				9件	書類の書き方の説明				0件
服薬管理				0件	代筆				0件
受診援助				5件	その他の生活技術に関する支援				26件
健康管理				4件	就労に関する支援				3件
その他の生活と医療に関する支援				43件	社会参加・余暇活動に関する支援				10件
不安の解消・情緒安定に関する支援				231件	権利擁護に関する支援				1件
保育・教育に関する支援				0件	虐待関係に関する支援				0件
家族関係・人間関係に関する支援				83件	住宅関係に関する支援				7件
家計・経済に関する支援				20件	その他				23件
相談者数(実人員)							70	人	
うち、身体障がい							10	人	
うち、知的障がい							10	人	
うち、精神障がい							45	人	
うち、その他							7	人	
うち、新規							32	人	

II 平成31年度の取り組みに対する自己評価



【特記】重点的に取り組んだ事項

新規相談についてまずは受けとめるよう対応し、相談内容をうかがった上で他事業者や関係機関に繋ぐ。必要に応じて協力体制をとる。繋がらない場合は当事業所で支援。また、相談支援事業所からの相談に応じ、支援協力にも取り組む。

Ⅳ 特定相談支援事業所や他機関との連携状況

- ・相談支援事業所からの相談。電話相談。ケース内容を聞き、委託相談との連携、家族への関わり方等を助言。
- ・相談支援事業所のバックアップ。モニタリング、担当者会議への参加、支援の役割分担、同行訪問等。
- ・**計画相談の依頼に対し、申請の受付、インテークを行った上で、相談支援事業所へ紹介。**
- ・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所からの相談。障害福祉サービスについて、就労支援施設の紹介、調整、見学同行、担当者会議への参加等。
- ・地域包括支援センター主催、地域支援ネットワーク会議への参加、事例提供。

Ⅴ H31年度実績及び自己評価に関する全体評価

受けた相談は断らないように対応。相談内容や希望を聞き、**受け入れや対応が難しい状況にある場合、事業所側の事情・見通しを説明。他事業所に繋げるようにした。**他事業所に断られてきた場合や他事業所が受けられない場合は当事業所で受け入れる。しかし、当事業所でも計画相談を受け入れる余裕がない状態で、**複雑なケース等が多く、十分に対応ができていない。**

Ⅵ 令和2年度において改善を要する点

- ・相談支援事業所との連携。計画相談の利用調整。ケースに応じた協力体制、役割分担。
- ・委託相談利用者に対しての計画作成、定期的なモニタリング。
- ・地域や関係機関との連携を強化し、地域課題に対する取り組み。
- ・成年後見制度の利用支援。

Ⅶ 令和2年度の活動目標

- ・新規相談者に対する受け入れ。受け入れ後の**引継ぎ・役割分担等、相談支援事業所と連携し支援する体制**を作る取り組み。ケースに応じ協議した上で、相談支援事業所と一緒に支援する。
- ・成年後見制度利用支援。関係機関との調整、同行、申請手続き等。

青森市障害者相談支援事業 活動報告

事業所名: 指定相談支援事業所ほたる

I 平成31年度実績

①相談件数									
訪問	来所	同行	電話	電子メール	FAX	個別支援会議	関係機関	その他	計
98件	38件	34件	93件	0件	0件	8件	28件	0件	299件
②支援内容									
福祉サービスの利用等に関する支援		151件	金銭管理						3件
障がいや病状の理解に関する支援		19件	書類の書き方の説明						0件
服薬管理		2件	代筆						0件
受診援助		13件	その他の生活技術に関する支援						4件
健康管理		6件	就労に関する支援						30件
その他の生活と医療に関する支援		13件	社会参加・余暇活動に関する支援						0件
不安の解消・情緒安定に関する支援		28件	権利擁護に関する支援						1件
保育・教育に関する支援		0件	虐待関係に関する支援						10件
家族関係・人間関係に関する支援		29件	住宅関係に関する支援						6件
家計・経済に関する支援		10件	その他						6件
相談者数(実人員)							48	人	
うち、身体障がい							4	人	
うち、知的障がい							13	人	
うち、精神障がい							26	人	
うち、その他							9	人	
うち、新規							13	人	

II 平成31年度の取り組みに対する自己評価



【特記】重点的に取り組んだ事項
<p>【専門機関との連携】 地域ケア会議への出席や障害から介護へ移行するケースの増加等、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携する機会が増えていることもあり、連携を強化している。</p>
<p>【社会資源を活用するための支援】 浪岡地区に障害福祉サービス事業所が少ないため、浪岡地区まで送迎のある就労事業所やグループホーム等の情報を収集。近隣地区と積極的に連携するようにした。</p>
<p>【権利擁護のために必要な支援】 成年後見制度の活用が必要と思われる方が増えてきており、申し立て時のサポート等を実施した。</p>

IV 特定相談支援事業所や他機関との連携状況

- ・地域包括支援センターに併設されていることもあり、包括を含めた高齢者機関(包括、居宅等)から障がいのある方について相談を受けることが多い。最近では、包括等で関わっているケースの家族に障がい疑われる方がいる場合の同行や障害福祉サービスと介護保険サービスの併用に関する相談、地域ケア会議への出席依頼が増えている。
- ・県の難病団体連絡協議会(青森県難病相談支援センター)が同じ建物内にあるため、難病の方が利用できるサービス等に関する相談を受けることがある。
- ・浪岡地区にある医療機関から、障がいのある方のケースについて相談を受けることが増えている。
- ・浪岡地区には当事業所を含め、相談支援事業所が2か所しかないため、**バックアップも難しい状況だが、相談等を受けた場合は、同行や必要な情報提供等を実施**している。

V H31年度実績及び自己評価に関する全体評価

- ・親が高齢になったことをきっかけに課題が表面化するケースが増えていることもあり、包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携しながら対応する機会が多かった。
- ・相談支援事業所の役割をPRするために、地域の公民館祭りにて展示を実施しているほか、毎月実施している障がい者交流会(敷地内にある老人福祉センターにて実施)におけるイベント主催等を実施。また、参加されている方や障害者相談員との情報交換も実施した。
- ・浪岡地区の方を青森市以外の相談支援事業所で担当していることも多く、バックアップが難しいと感じることが増えた。また、相談支援事業所が圏域内に2か所しかないため、委託のケースも特定のケースも当事業所で抱え込んでしまっている状況がある。(特定事業所と委託事業所が連携をしながら対応をするということが難しい。)

VI 令和2年度において改善を要する点

- ・地域特性もあり、障がいや生活上の困難を抱えていてもそれが表面化しづらい傾向がある。特に**地域の中で孤立している地区がいくつかあるため、その地区の町内会長や民生委員といった方へのアプローチが必要**。
- ・地域の関係機関に対する周知は進んでいるが、地域の住民等への周知は不十分。障害のある方への相談窓口があることを幅広く知っていただく努力が必要。
- ・浪岡地区に相談支援事業所が少ないため、バックアップ体制に課題有。それぞれの事業所で困難ケース等を抱え込んでしまっている傾向がある。

VII 令和2年度の活動目標

- ・浪岡地区の方の日常生活圏域に合わせた社会資源マップの作成。
- ・圏域の事業所で抱えている困難ケースの整理及び定期的なカンファレンスの開催。
- ・相談支援事業所の周知活動。
- ・地域包括支援センターと連携しながらの研修や会議等の実施。